

国際交流センター

国際交流センターでは、留学生・外国人研究者、職員の海外留学・海外出張そして学生の海外実習・研修など国際交流に係るさまざまな事業を行っています。

海外大学との学術交流を深めている中、国際社会に通用する医療人の育成を目的に、1年生には海外生活の体験と英語教育を中心に、2年生からはライフサイエンスできるように、高学年では臨床の現場で実習できるカリキュラムを組んで、学生の海外実習・研修を実施しています。

2006年度から1年生に米国ポートランド州立大学での4週間の夏期研修を行っており、全学部学生に対して、国際交流の機会が得られるよう学生海外実習補助金制度を設けて、経費面からもサポートをしています。



大学では学生の国際交流を推進するため、海外実習・研修補助制度を設けて積極的に支援しています。

クラブ活動紹介 第3回 グリークラブ

医学部2年 解良 仁美さん (頤栄女子学院高校出身)

慶和荘ボランティアのお話をいただいた当初、「学内ならまだしも、一般の方の前で歌うなどそんな大それたことはできない」とメンバーで結論を出し、お断りするつもりでした。しかしクリスマスパーティーに向けて練習を重ねるにつれ、祭りのときよりもレベルが上がってきたという実感があつたこと、同じ話を受けていたMAS(ジャズバンドの部活)さんはボランティアに参加するということもあり、結局グリークラブも参加させていただくことになりました。慶和荘ではゆったりとした雰囲気の中、のびのびと歌わせていただき、とても充実したコンサートを行うことができました。とりわけ、私たちの寮生活での思いをこめて歌えるのでは、と考えて選曲した「ふるさと(うさぎ追いし、かの山〜)」を慶和荘の方々と一緒に歌ったときは胸がいっぱいになってしまい、歌うことよりも涙をこらえることに必死でした。私は1年間グリークラブのメンバーとして活動し、慶和荘ボランティアに参加できたことを、とても幸せに思っています。



平成21年度ドイツ国フライブルク大学 夏期ドイツ語研修参加者募集

昨年に続き昭和大ドイツ語教師が随行する夏期フライブルク大学短期留学生を募集します。期間は夏期休暇中8月3日～8月29日の4週間です。留学先はフランス、スイス、にも近い風光明媚な大学都市であり、環境先進モデル都市です。費用は生活費・授業料・旅費すべてで一人50万円程度です。宿泊は学生寮の個室です。午前中ドイツ語・ドイツ文化の授業を受け、午後は自由時間で豊富な文化体験コースにも参加できます(遠足・コンサート・見学・パーティー等)。語学初心者でこのように長期間の外国滞在ができることは将来にも稀でしょう。この機会にふるって参加することをお勧めします。昭和大の研修援助金が利用できます。説明会については掲示板を見てください。



▲フライブルク市の眺望



◀フライブルク大学。ヨーロッパ最古の大学の一つで、ドイツ有数の名門大学として知られています。

～吉田体験記～

医学部4年 桑原 直太君 (広島城北高校出身)

吉田での生活は3年経った今でも昨日のこのように思い出すことができます。それほど楽しく、魅力的で貴重な経験でした。

吉田の特徴と言ったら、色々な人たちの共同生活に尽きると思います。入学式で誰も知らない、右も左もさっぱり分からない状態で突然投げ込まれる集団生活の場。そんな状態なので最初は不安、困惑、当惑。けれど、気付いたらあつという間に吉田の生活はとても素敵なものになっていました。学部を超えた友達と、部活に遊びに(そして勉強も!)邁進し、夜は夜でみんなで集まって尽きることの無い話に花が咲きます。自ずとお互いの仲も深まり、東京にキャンパスが移った今でも交流が続いています。これは寝食を共にし、共に学ぶことのできる吉田だからこそできることだと思います。今でも時折、吉田に帰りたいという衝動に駆られます。

新入生のみなさんが充実した吉田生活を送れますことを祈っています!



白百合

昭和大学だより
第5号 2009.4.12発行

発行責任者 富士吉田教育部長 片桐 敬
編集責任者 富士吉田教育部教授 倉田 知光
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田 4562
TEL 0555-22-4403



倉田知光撮影

真心を尽くして・・・

昭和大学富士吉田教育部長 片桐 敬



ここ昭和大学富士吉田校舎にもようやく春がやってまいりました。先輩が四十年前に植樹したグラウンドの桜の花も満開になり、新入生の入寮を歓迎しております。昭和大学は、自らの本質を医系総合大学ととらえ、初年次学生は、全寮制で一年間を過ごします。これが本学の最大の特徴であります。不安もあるかもしれませんが、指導担任・寮監が支援しますから心配ありません。簡単な規則を守り、他人をおもんばかりの気心があれば、すぐに慣れて楽しい一年間を送ることができるでしょう。

本学のモットーは「至誠一貫」であります。本学の学生は、全員、将来は医療人として、医療に携わる立場にあります。真心を尽くして病める人々や他人に尽くす、これが最も求められます。そのために全寮生活があるのです。日本では少ないのですが、イギリスのオックスフォード大学、ケンブリッジ大学、アメリカのハーバード大学など、欧米の一流大学では初年次教育に全寮生活を取り入れており、本学も同じ精神で、教育の根本としております。

大学生として第一歩の初年次生活ですが、素晴らしい富士をめぐり美しい自然の中、多くの友人・仲間を作り、クラブ活動に、学習に活躍して下さい。受験生活が終わり、とかく安心して心がゆるみがちですが、四年間、あるいは六年間の学生生活はすぐに過ぎてしまします。卒業後には、医療に携わる人々は国家試験に合格しなければなりません。大いに楽しみながら、よりよい医療人となるべく、一般教養科目、基礎科目、専門科目など、将来の知的専門職 (learned profession) としての成就を目指して、学習に励んでいただきたいと思えます。この一年間を楽しく、有効にお過ごしいただくことを切に希望するものであります。

平成21年4月12日

富士吉田教育部ロゴ

昭和大学の校章は昭和21年昭和医科大学予科の学内公募で百合の花がデザインされたことに始まります。昭和39年薬学部新設時に昭和大学に改名され、現行の百合のデザインに大学名が入れられ現在の形となりました。今では附属の各学校に至るまで百合の校章で統一されています。

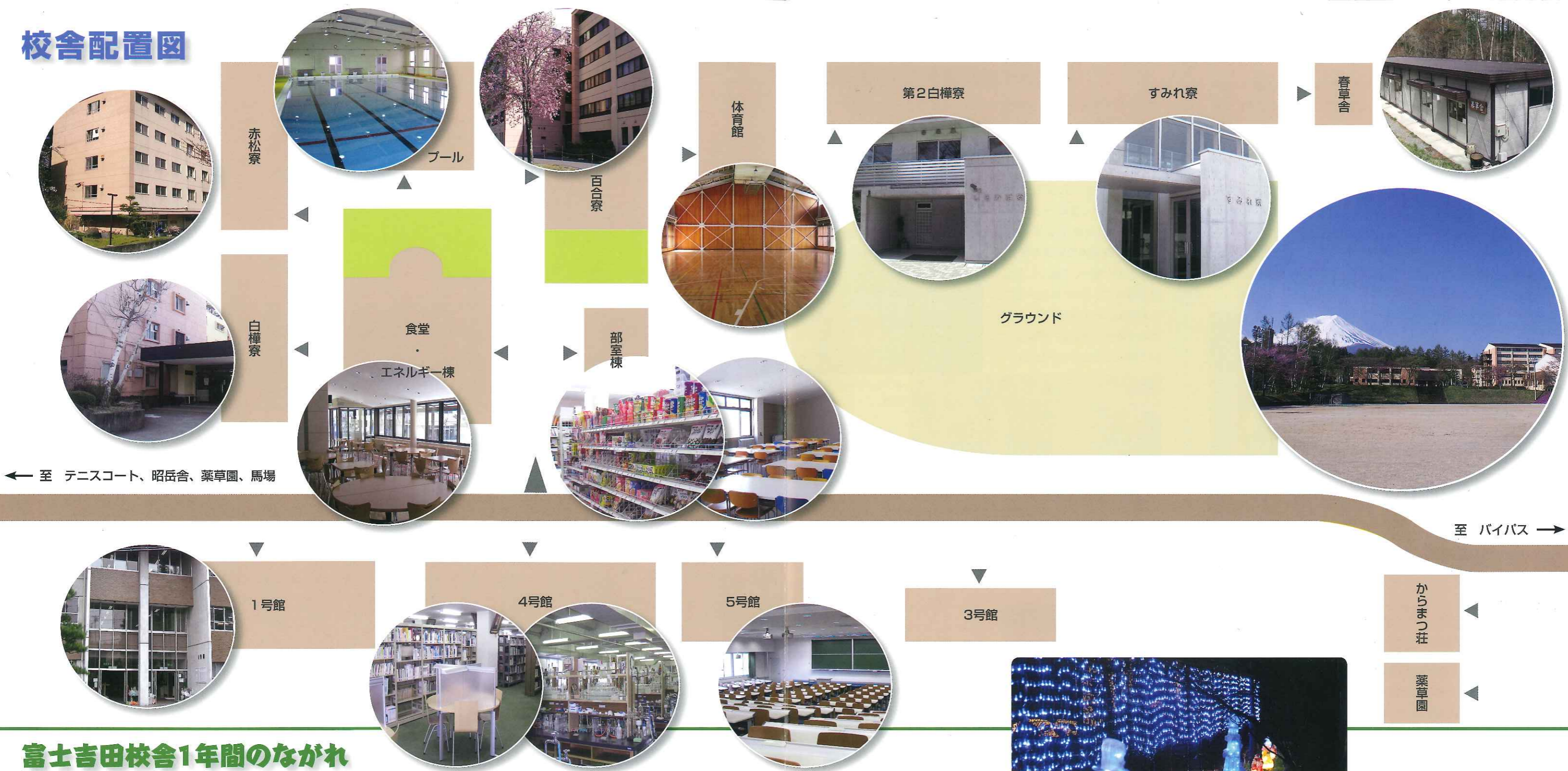
そこでこの百合のマークを基準に、全寮制で共に学ぶ富士吉田校舎ならではのロゴを提案しました。昭和大学の独自の制度である全寮制共同生活は、人としての根幹をなす相手の思いや基本的態度と人格の異なる両者を結びつけるコミュニケーションを通じて将来のチームワークの心を育成する場であることに鑑み、富士吉田教育部の英語名称で周辺に円を描き、昭和大学校章の百合を取り囲みました。英語表記は現教育部長片桐敬先生が着任に際し表されました。Artの原義は「組み立て」ですが、これから派生して「技」(てわざ)や「術」(手段)、そして技術に転じたと考えられています。そして、それは単に「技術」ではなく、医療や看護で患者に個別的に接する技(わざ)もアートと考えられ、またアートには、人間の本質の接点、すなわち「いのち生かすこと」の意味も表されています。またそこには、リベラル・アーツも包括して考えられています。

このことから単に Arts and Sciences が「科学を基礎とした技術」という訳ではないことをお分かりいただけるかと思えます。昭和大学の初年次教育が、医の心を育む場であることを願って作成されています。また下段に西暦を記しています。この全寮制度は1965年(昭和40年)から始められた長い歴史を持つことを表しています。当初は5進法で表されるローマ数字を当てましたが、誰にでも分かりやすくと観点から、アラビア数字で入れられました。

富士吉田教育部学生部長 田中 一正



校舎配置図



← 至 テニスコート、昭岳舎、薬草園、馬場

至 バイパス →

富士吉田校舎1年間のながれ

入学式 入寮式	オリエンテーリング	寮祭	前期定期試験 退寮・夏休み	帰寮	早期体験実習		クリスマスパーティー 退寮・冬休み	帰寮・後期定期試験 完全退寮・春休み	2年生へ進級 旗の台・横浜 キャンパスへ		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月



オリエンテーリング



寮祭



吉田の火祭り



早期体験実習



クリスマスパーティー



かまくら



4月の桜